

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 森蔵の家		
所在地	広島県呉市倉橋町11777番地 (電話) 0823-54-2510		
自己評価作成日	2022年10月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3473100562&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3473100562&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	2010年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・利用者の気持ちを、大切にして日々の支援に取り組んでいる。</li><li>・各利用者の生活レベルに応じて、無理強いせず一人ひとりが孤立しないように心掛けている。</li></ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この事業所は、倉橋島のほぼ南端の海沿いの古く歴史のある町中にある。事業所自体も大正時代に建てられた木造二階建ての洋館建で、かなり使い込んだ感はあるが、天井まで伸びた大きな格子のガラス窓は風格と歴史を感じさせる。以前、運営母体の病院として使われていた建物を、地域住民の要望を受け入れる形でグループホームとして改修し開設された。それだけに地域に溶け込み、地域の民家と肩を並べ、地域と一体化した事業所となっている。「笑顔であいさつ」を合言葉に利用者本位の支援が心掛けられており、入居者の表情もホームの空気も穏やかである。特に重度化・終末期に於ける献身的な支援は、評価できる。又、事業所内に「おたっしゃクラブ」を作り、男性職員が入居者のみならず地域住民や小学生生徒を招待し、天然木を使った作品作りを指導している点は注目に値する。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域との交流を図り、職員・地域住民と子供により良い生活環境を作り上げ、地域に貢献出来るよう心掛けている。	法人の運営する複数のグループホームの統一理念「人権を尊重し・・・」と併せて、当事業所の独自の理念として『笑顔で挨拶』が掲げられている。それらはリビング等に掲示されており、管理者が率先し実践することにより、職員への徹底を図ろうと努められている。	理念は数か所に掲示されているが、皆で確認あるいは振り返り等による共有状況、及びその実践度合いが見えにくい。事業所あるいは個人の年間・月間目標を設定し、具体的項目を達成することにより、理念の共有・実践がなされるを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内清掃・行事に参加し、地域交流に取り組んでいる。	自治会に加盟しており、地域の行事には積極的に参加している。特に、担ぎ手が少なくなって、継続があやぶまれていた地域の伝統行事「だんじり」には、多くの職員が参加し”これで続けられる”と喜ばれて歓迎されている。このように事業所は、地域に十分に溶け込み、共に歩んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地元の盆踊りやだんじり祭りなど参加し、祭りを盛り上げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では事業所側からの報告の他、参加者からの要望等を受け、相互の理解を深めるようにしている。	老人会・婦人会・自治会等の住民代表を招き、開催されている。事業所からの現状報告のほか、参加者の質疑応答の時間もあり、一応の体制は整っているが「利用者家族の参加がない」の理由で、会議が開催されない時があるのは、残念である。	”次回も参加しよう！”と参加意欲が高まるよう、会議内容の充実（例えばヒヤリハット等の内容を具体的に発表し、活発な意見交換を促す）が図られ、定期的に、しかも有意義な会議が開催されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課の認知症介護アドバイザー連絡会に登録しており、年に数回行われる集まりに参加している。	分からないことは即、市担当者に相談されている。「重要事項説明事項」の内容修正も、市担当者の指導をうけながら実施した。認知症アドバイザーとして市主催の「認知症家族の会」にも参加する等、市担当者との協力関係は築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会に参加したり、日中は鍵をかけず自由に入出入り出来るようにしており、職員全員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。	年1回、定期的に法人内で身体拘束に関する研修があり、職員が交代で受講している。管理者が、当事業所に就任の時に入居者の着用している”つなぎ”を規制した服装（身体拘束）とみなし、廃止した経緯もあり、職員の身体拘束防止への意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加したりミーティングを通して理解を深め、危険を察知できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に参加し、権利擁護事業や成年後見制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書・重要事項説明書を十分に説明し、理解・納得が得られるように取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や意見はその都度、ミーティングで話し合い解決に努めている。	家族の面会が少なく、家族から直接に意見や要望を聞くことはまれであるが、機会を捉えて（利用者の体調不良時・インフルエンザ流行時期etc/）電話により利用者の近況報告をしたり、要望を聞くよう努めている。	家族の面会・運営推進会議への参加が少ないこともあり、家族とのコミュニケーション不足が見られる。利用者の暮らしぶりを伝える定期的な月間通信が、家族に送付され、少しでもコミュニケーションが改善されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者がその都度聞くようにしている。代表者は度々、施設に訪れるのでその場で聞けるようにしている。	職員の意見・要望は日常業務の中での会話を通じて、その都度、汲み上げるよう努められているが、職員が発言できる定期的で特別な場は設けられていない。管理者として全職員の意見を聴取総括したり、情報を共有して組織として運営に反映させることへの取り組みが今以上に期待される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は度々、施設を訪問し状況を把握しており、個々の能力に応じて活躍の場、環境作り、やりがいに繋がるような対応をするように努め、評価をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の老健、医院で介護の研修を受けたり外部研修も参加している。また、資格取得の際には勤務調整等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症介護アドバイザー連絡会に登録しており、勉強会や意見交換をおこなっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至るまで、ご本人・ご家族に、気軽に何でも相談できる雰囲気作りを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談・利用希望の話し合いを十分に実施し、受け止めることにより、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望には出来る限り対応出来るよう、相談し、必要としている支援を実現出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭的な雰囲気の中で共に生活している。生活の知恵や更に文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	一方的な要望等だけでなく様々な会話が出来るよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人・家族の希望時など面会・外出支援を行っている。	入居者の耳が遠く、電話で聞き取りづらい時、代わりに聞いてあげコミュニケーションの仲立ちをしている。又、知人の訪問の際には、くつろいで話し合ってもらおうよう、部屋へ案内したり、ねぎらいの声かけをする等、関係が途切れないよう適切な支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、一人ひとりが孤立しないよう、関係をより深めることが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、利用者・家族からの要望があればその都度対応できるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者からの思いや意向を、日常生活の会話や生活支援の中から、捉えるようにしている。	本人から希望や意向が聞き出せないときは、家族や以前いた施設の方に、利用者の意向や好みを聞きだすよう努めている。日々の過ごし方は、皆で歌を歌う時等も「決して無理強いしないこと」を基本方針として、本人の気持ちを大切にしたい、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を本人や家族から聞き取り、一日のリズム、ペースの把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活のあらゆる視点から利用者の状況を把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居前に関係者に情報を頂いたり、ご利用者・ご家族の要望を汲みとり、ミーティングで個別計画の検討をしている。</p>	<p>介護計画は6ヶ月ごとに見直しが行われている。まず、計画作成担当者が計画のたたき台を作成し、それを基にミーティングで話し合い、皆の意見が反映された介護計画が作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>申し送りなどで利用者の変化を確認し、その都度記録し、職員全員が把握できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>安心して暮らして頂くために、本人の状況や家族の要望に応じて、柔軟な対応が出来るようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>生活に関わる買い物は地域の商店を利用し、必要時に利用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者や家族の希望があれば、提携医の他に今までのかかりつけ医の受診もできるようにしている。</p>	<p>ホーム運営母体の医療法人から定期的な医師の回診があり、自然とそこがかかりつけ医となっている。それでも、本来のかかりつけ医や専門医の希望があれば、希望に沿った対応がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な看護師の訪問の他、日常の健康面や医療面について24時間連絡がとれる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員が面会を行い、本人のストレスや負担が軽減でき、早期退院が出来るように支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、どこまで施設で対応できるか、家族の意向、医師の判断等により検討し、取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期における事業所としての方針を説明し、本人・家族の意向を確認している。その時期が近づいた時は、改めて医師の意見を基に本人・家族の希望を確認し、「できる限り希望に沿う」を基本として最大限の努力が払われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修会に参加したり、医師・看護師指導の下、全ての職員が対応出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、初期消防大会に参加したり、地元の消防団とも交流があり、協力が得られるように働きかけている。	事業所での消防訓練を年2回実施し、初期消防大会にも毎年、代表者が参加している。又、近くに地域の消防団があり日頃から消防団長や隊員と親しく交流し、「いざの時はすぐ駆けつける！」の力強い声かけをいただくなど、地域との協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりにあった言葉掛けを行い、注意しながら対応している。	利用者が下着を汚した時などは、他の人に気づかれないよう、そっと部屋に誘導し対応している。又、小物類を衣服の中に隠す癖のある入居者には、人前では指摘せず後でそっと処理している。誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや、対応が充分配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの理解力に合わせた本人の希望を尊重し、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、本人の体調や希望を尊重した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望があれば、本人の希望する店に行けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も利用者と同じ食事を食べている。片付け等、利用者の能力に応じて支援している。	全般的に利用者の体力低下が進んで、以前のように食事準備は出来なくなっている。基本メニューは、事前に決められているが「何が食べたい？」と利用者問いかけて、メニュー変更することもある。気の合う者同士の席替えや、七夕・クリスマス等の行事食も取り入れながら、食事が楽しめるよう、支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	メニューは栄養士が作成しているため栄養バランスは取れている。水分量は一人ひとりの状況に応じて，好きな飲み物で摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがいの支援や毎日の歯磨き，義歯の洗浄等，日常的に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりに合わせた対応を行うようにしている。出来ない部分はさりげなくフォローするようにしている。	本人から何の訴えのない場合でも，朝・昼・夕方の3回は定時誘導している。段差のある部屋では，ポータブルトイレを設置しているが，使用後は即，処理し清潔管理には気が配られている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の管理を行っており，水分補給や体を動かすなど気を配る等，対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	原則，入浴時間は設定しているが，その日の体調や希望，状況に合わせて柔軟に入浴支援を行っている。	大まかな個人スケジュールは決められており，週2回，午前中の時間帯で入浴しているが，体調や要望により柔軟に対応している。時には，入浴剤を使うなどして，楽しく入浴できるよう配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、各居室、居間で自由に過ごせるようにしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	ミーティング等で協力医の医師や看護師を交えて、薬の知識が得られるようにしている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	生活歴に合わせて、日々の能力を活かした役割や手伝いをして頂いている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	利用者の希望に応じて、買い物や散歩など出来るよう支援している。	利用者の高齢化・重度化が進み、外出希望が極めて少ない状況ではあるが、本人の希望があれば、近くの商店街に買い物や散歩に出かける支援はなされている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	一人ひとりの力量に応じて判断しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間では季節感のある物を飾っている。静かで落ち着いた雰囲気過ごせる居間と、明るく日の当たる居間と2か所あり、自由に過ごせるようにしている。	新鮮な空気を取り込むため冬でも朝は必ず、窓を開けて空気の入れ替えを行っている。又、季節に合わせてススキや笹を飾ったり、クリスマスやお正月も季節感を出すように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間が2か所あり、どちらでも自由に過ごせる空間を設けており、気分に応じて過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても違和感がないよう、家具・テレビ等、使い慣れた物が自由に持ち込み出来るようにしている。	ベットは備え付けられている部屋もあるが、希望すれば持ち込みも可能である。その他テレビ・タンス・椅子の備品や縫いぐるみ等の小物に至るまで、本人の好みのもの・使い慣れたものが自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室に名前を貼らず、利用者の能力を生かせるよう、状況に応じて声掛け等を行うようにしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム森蔵の家

作成日 平成 22年 11月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の開催が少ない。	定期開催を行う。	会議の年間開催日を決め、メンバーに予定を伝え、欠席者がいても開催を行うようにする。	1年
2	6	家族とのコミュニケーション不足。	家族とのコミュニケーションを図る。	家族に定期的に写真や手紙を送り、近況を伝えるようにする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。